

# 地域理解のための身近な自然観察

平山大輔（教育学部理科教育講座）

まちづくりに生かすために、私たちの住む地域社会をよりよく理解する上で、大事なことは何でしょうか。人や文化や産業を知ることでしょうか。もちろんそれは大事なことです。しかしもっとマクロな目をもって、私たちを包含しているこの地域の「自然」について知ることも、とても大切なアプローチだと思います。生き物の特性がその生息場所と密接なつながりをもつように、地域社会もその「場（＝自然）」を離れては存在し得ないからです。

この一連の演習では、「地域理解のための身近な自然観察」をテーマとし、自然観察の技法を学ぶとともに、地域に特有の自然の成り立ちを観察することで理解し、さらに、自然と人の関わり等を考えることを目的とします。

## （進め方）

毎回テーマを設定して、観察会などを行います。場所は、三重大学キャンパスおよび三重県内各地です。雨天の際には、屋内（三重大学教育学部の教室など）での演習に変更することもあります。基本的には、野外での自然観察に適した服装等でご参加くださいますよう、お願いいたします。

各回の具体的なテーマは、以下のように予定しています（順不同）。

1. 自然観察の方法 — キャンパスの自然を題材として  
どこに注目すると自然観察は楽しくなるか。身近な場所にある多様な生命現象を観る。
2. 東紀州の自然  
尾鷲を舞台に東紀州特有の自然とくらしを知る。
3. 伊勢湾岸の海浜植生  
貴重な自然海浜が残る伊勢湾。海浜に生きる植物の生態を探る。
4. 旧里山の自然  
かつて人の生活とともにあった林の現在の姿を知る。
5. 東海地方特有の湿地  
東海地方を特徴づける生態系のひとつである湿地を理解し、人との関わりを考える。
6. 神社に残る太古の森  
はるか昔伊勢平野に広がっていた森の姿を知る。